



善正寺だより

掲示板法話

頭を垂れ敬いあう聖空間

そこに本当の絆が結ばれる



陽春の四月。私たちが宗祖と仰ぐ親鸞聖人七五〇回大遠忌法要が東西本願寺をはじめ、他の真宗各派の本山でも勤まります。今年の新年から再び、新聞紙上において、五木寛之さんの小説「親鸞」(激動編)の連載が始まりました。それは親鸞聖人が流罪となった越後の生活が描かれています。恵信尼様も越後に同行されましたので、必然的に親鸞聖人ご夫妻の越後での結婚生活を窺うことができます。

親鸞聖人は法然聖人の念仏門に入るのと相前後して、恵信尼さまと結婚されました。恵信尼さまは越後の豪族三善為教の娘ですが、かねて関係のある九条家に奉公に上がり、九条兼実公が法然聖人の熱心な庇護者であったため、親鸞聖人はそこで恵信尼さまとお出会いはなったと推測されます。

当時、出家した僧侶の妻帯は僧尼令という法律で禁じられていましたが、結婚の是非について法然聖人に尋ねたとき、法然聖人は「妻をもたずば念仏できぬ、と思わば、妻をめぐって念仏なされ。また、独り身のほうが念仏しやすけ

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
TEL:0593-31-1670
TEL:0593-32-0733

れば、そうされよ。要は、念仏じや。...とお答えになった、ということ。そこで、お二人は自然な形で一緒に生活することになったのではないのでしょうか。お二人が、法然聖人の専修念仏の教えを生きる拠り所として、家庭生活を営まれたのは想像に難くありません。その結果、互いに「観音菩薩の化身」と深い敬愛の情を秘かに抱きつづお二人は生涯をともにされたのです。

五十年に一度の大遠忌法要の営まれるこの記念すべき年に、わが息子も晴れて結婚式を挙げることになりました。大勢の皆様祝福されて晴れの日を迎えることができるのは、まことに有難いことと感謝申し上げます。

しかし言うまでもなく、閉塞感漂う人口減少社会に船出する二人の将来には様々な試練や困難があるかと想像されます。この困難な時代を乗り越えていくにはどうすればいいのだろうか？

先日永代経のご法話で、「現代日本人の不幸は聖なる空間(お仏壇や床の間など)を忘れたことだ。夫婦や家族が自分の価値観をぶつけ合うのでなく、

頭を垂れずにおかぬ空間をともにしながら、同じ方向を向いて手を取り合って生きていくのが絆を大切に生きていくことになる」と石川先生は教えてくださいました。その大先達が親鸞聖人ご夫妻だと思えます。

私たち七五〇回大遠忌を「夫婦や家族がともに拝み合う生活」への機縁にさせていただきますと思うのです。



☆行事ご案内☆

☆ 長男潤爾結婚式 4月3日(日)

10時:参詣者お菓子配布、10時半:仏前結婚式

11時:記念撮影、午後1時:都ホテル一般披露宴

午後5時半、本堂で門信徒披露宴、7時中締め予定

4/2(土)午後1時披露宴準備(世話方さん行事さん)

4月17日(日)夜7時半『門信徒会例会』

結婚式写真公開、思い出話、反省点など、茶話会。750回忌法要の様子など住職の話。

◇キッズサンガ 4月の4時からの集いは行事でお休み
毎日夕方5時の鐘撞きは誰でもOK 飴ガム付。年中無休

◇三重組コーラス 西勝寺様で 4月12日(火)午後1時半

4/16(土)1時半 三全仏教婦人会主催

「初参式・降誕会」(光念寺様、講師:加藤幸子先生)

◇一縁会テレホン法話059・354・14543分間法話聞けます

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。「つれづれ日記」が好評
長男もブログに参加、4万回アクセス達成!毎日60~70の訪問に感謝!HPからのメール、悩み相談など大歓迎!

※10月15日(土)京都西本願寺親鸞聖人750回大遠忌法要バス参拝(50名)定員になり次第締め切り。費用8千円を添えてお早めにお申しこみ下さい。宗祖讃仰作法音楽法要でお勤め

☆善正寺のホームページ。「三重 善正寺」で検索可。毎日更新の「住職と坊守のつれづれ日記」が好評。長男も若い感覚でブログ投稿。開設2年8か月で4万超える。平均一日70アクセス!

平成23年度善正寺主な行事予定

- ※5/22(日)(午前)門信徒総会(午後)公開法座(藤大慶先生)
- ※8/20(土)午後・夜・21(日)午後「永代経」(足利孝之先生)
- ※9/18(日)午前・午後・小杉仏教会主催「追悼法要」(貴島信行先生)
- ※10/15(土)親鸞聖人750回大遠忌法要バス参拝(50名)
- ※12/3(土)夜お内仏報恩講

☆例会は原則第3日曜の夜7時半

坊守スケッチ

座布団布から受け取る親心



住職と二階の納戸を、ほぼ十年ぶりに大掃除をした。先祖が大事にした思いの品物もあるが、要らない物も随分たまっていて、掃除の鉄則は「断捨離」と言って、長年使わないものはほとんど捨てること。それに従って進めていると、座布団ダンスの上に、見慣れない二本の反物が出てきた。これも捨てようか一瞬迷ったが、中身を確認すると、新品の座布団布ではないか！柄や色目から私が嫁に来る時に持ってきたものと同じ布だ。今までダンスの上にほり上げて、全く気付かなかつた。何故布地だけ二本もあるのか不思議だった。新品と言っても三十七年経っているのだから、布地が弱って使えるかどうか分からない。そこで布団屋さんを呼んで見てもらった。

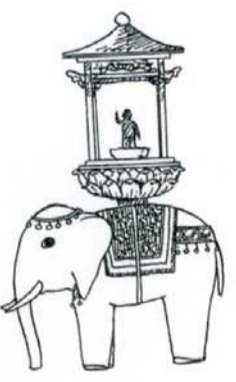
「大丈夫です。客用座布団より一回り大きな布で、僧侶用座布団が出来ます。これで二十枚の新品座布団が作れます」とのこと。私は丁度新しい座布団が欲しかった。「嫁入りの時に持たせた座布団は古くなっていてから、息子にお嫁さんを迎える前に、新品の座布団を用意しなさい」と言って、母が手回しよく、余分に布地を持たせてくれたのだと、私は合点がいった。突然母が舞い降りてきたような感激だった。私はその時『姥捨て山』の話しを思い出した。年老いた母を背負って、山

に捨てに行つた息子が、帰り道を間違えないように、背中の母親が小枝をポキポキ折って『道しるべ』にした話。親とは子供がいくつになっても、ずっと先まで見越して心配してくれる。ただ子供がそれにいつ気付こうとも、親は決して請求はしない。親心を受け取るには、随分時間がかかるものだ。それに対して、最近の親子関係はどうだろうか？親の思い通りに育たないからと虐待する、逆に子供が親に反抗して事件となるケースが相次ぐ。

最近では促成栽培のような子育てを望む。子供に対して、努力の経過ではなく、結果をすぐ出さなければ許せない親。じっと待つことを知らない。よその子供と比較して、落ち込んで叱る。「よそはよそ」という確固とした我が家流子育ての自信がない。自由で気楽な生活を望み、自分達の殻に閉じこもり、狭い価値観に浸かった生活。そのひ弱さが原因ではないだろうか？

本来の親の愛情と言うものは、すぐに花や実をつけるものではなく、土壌に肥やしをやるようなものだ。ずっと後になって多くの恵みの中で、子供自身が自分なりの花を咲かせる。

八十六歳で母が亡くなって、早九年。生きていた頃は何一つ親孝行できずに、私の愚痴の聞き役をしてくれた。この春、長男にお嫁さんを迎える。お



浄土の母もきつと喜んでくれるだろう。私も母のように、何も言わずとも、先の先まで子供達を見守り続けられる親になりたいと思う。

★寄稿

四日市市 川崎孝一

★農兵で 赴任の地名 思い出す
松阪、阿坂、伊勢寺、松尾

(注・地名記憶定かでない)

★白足袋を 履けば背筋が しゃんと
として 歩めばハート 僅か華やぐ

★上がっても 昼飯古墳は 桁外れ
南濃ぐるり 視界広がる

★ポールペン とことん使いきった
ぞと 取るに足らない 満足感

四日市市 釈久遠

★わが庭に 目白飛ぶなり 梅の花

★古希迎う我が夫の手元気よく
幾度伸びる馳走の膳に

★娘の置きし雛人形陽の目見たしと
飾り華やぐ 釈恩厚

♪三重組コーラス♪

★西勝寺様で午後1時半4月12日

(火)・5/9(月)・6/7(火)27(月)

7/7(木)名古屋別院・新指導者体制

キッズサンガ・杉の子合唱団

夕方5時の鐘撞きは毎日。ガム・飴

第一土曜日4時の集いは、4月は他の

行事があるのでお休みです。

★カンパ有難う★

山根房子様・栗本洋子様・他匿名様よりお志・切手有難うございました。

★ホットニュース★

★4/2(土)午後1時本堂の披露宴準備。行事さん、世話方さんご協力よろしくお願ひします。

★4/3午前10時頃、お菓子配布

★4/3夕方5時半本堂披露宴、参加者100名程。本堂、庫裡四間、書院等で会食。席は自由で先着順。狭いですが椅子も用意。樽酒を用意しますので、飲まれる方はくれぐれも運転をなさらないようにお願いします。

琴演奏、踊り、「娘達よ」の歌を全員合唱。

★10/15(土)京都西本願寺バス団体参拝(音楽法要・50名、8千円)募集を開始！定員になり次第締め切り。現在30名の申し込み。お早めにお金を添えてお申し込み下さい。

★3月号に掲載した「あたりまえ」の時、多数の方より反響のお便りを頂きました。坊守スケッチ「リハビリ中の人からの手紙」をご参照下さい。

★編集子より★

「善正寺だより」二〇八号をお届けします。◇私事ながら、今年は得度から五十年、住職継職から二十年になります。

◇宗祖大遠忌のお勤まりになる春に、息子が挙式。気忙しい中にも時の流れの速さ、「こゝ迄支えられ導かれた深きご恩を思う春です。◇有縁の皆様のご芳情に深く感謝申し上げます。合掌。

春爛漫桜の季節を迎えました。今年の春は我が家にとりましても特別な年、4月3日に長男が挙式予定、かねてより皆様から御祝を頂戴し、また当日夕方の本堂披露宴に多数の方々がご参集下さいますこと厚く御礼申し上げます。その時には世話方振、行事振が何夫婦でお世話して頂ける由、深く感謝してします。七き前住職の詩集「法悦ほつえつの歌うた」の中から二篇の詩を紹介します。「明るい姑おやば嫁よめ」嫁は前世の嫁りな前世で因縁足らぬ故此の世も親子と巡り来た重なる「因縁たのもしや 姑は前世の親ぢやけな 前世で因縁足らぬ故此の世も親子と巡り来た重なるご恩に報いまして 明るい笑顔で励みゆく 念仏の道 永遠の旅」この詩は姑、嫁各々の立場で述べています。嫁姑問題は昔からある永遠の課題ですが、これを乗り越える道は、お互いが仏法を聞いて、相手を思いやる心を持つことだと老僧は説いていました。次に「鏡かがみ」という詩を紹介しましょう。「鏡に映る我が姿 ニッゴリ笑えは向こうも笑う」にらみつければにらんで返す 思い回せば浮世は鏡 泣くも笑うも我次第」この詩を読んで私も37年前に何も知らずに寺に嫁いだ当時の自分自身を思い出しました。白紙のキャンバスにどんな絵を描きどんな色に染めてゆくかは自分の受け止め方で決まっています。それが今世と今のりのけりてきました。どうか若い二人にも私達同様皆様方の心温まるお育ても頂きますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

合掌

平成二十三年 四月

善正寺坊守 拝